

The background of the cover is a photograph of a tall, light-colored brick clock tower with a circular clock face. In the foreground, there are numerous pink cherry blossom branches, some of which are weeping. The sky is clear and blue. A green vertical bar on the right side contains the text.

KOBE
university

STYLE

神戸大学

2012 SPRING Vol.17

KOBE
university

STYLE

神戸大学

INDEX

特集 法科大学院

世の中に求められる職業法曹の育成を目指して … 3

特集 神戸大学のキャリア支援

神戸大学キャリアセンター … 10

特集 学生寮物語

学生寮の今昔 … 14

同窓会・校友会・育友会

「紫陽会賞」を創設 … 18

「ミャンマー神戸大学同窓会」が発足 … 18

育友会の2011年度地区支部会開催 … 19

保健管理センターだより

不安、気分の落ち込み、憂鬱 … いつでも保健管理センターへ！ … 20

歴史のひとつま

神戸大学のキャンパス〈その4〉名谷地区 … 22

お知らせ

神戸大学創立110周年 … 23



特集：神戸大学法科大学院

世の中に求められる 職業法曹の育成を目指して

社会の多様化、高度技術化、国際化、および、市場化が進む中で、司法の役割の重要性が増大しています。その中で、「国民の社会生活上の医師」としての職業法曹（弁護士、裁判官、検察官）が果たすべき役割も多様で広く、重いものになっています。それぞれかけがえのない人生を懸命に生きる一人ひとりの具体的な生活やニーズに即した、きめ細やかな法的サービスを提供することが求められています。

神戸大学法科大学院は、そのような期待に応えうる職業法曹を社会に送り出すことを中心的使命とします。すべての法曹に必要な基本的な知識をしっかりと身につけること、そしてその知識を多様な現実社会で使いこなす豊かな応用能力を育てることを目標としています。神戸大学の法学教育における歴史と伝統を基盤とし、優れた教員達が日々の教育において精一杯努力し、日常的に意見を交換しながら、教育の内容・方法の見直しを積み重ねています。

本法科大学院は、過去6年間の新司法試験において、幸いにも全国有数の成果をあげることができました。そのことは、全国から集まった優れた資質を有する学生の皆さんが、私たちの教育を信頼し、懸命な努力を積み重ねた成果です。そしてもちろん、司法試験の合格は一つの通過点に過ぎません。いわゆるビジネス・ローを中心とした先端的法分野も含めた専門的知識を習得し、法律実務の現場で使いこなすための基盤的能力を育成することが私たちの目標なのです。

以下では、その目標のために私たちがどのような授業科目を提供しているかをご紹介します。また、在学生・修了生が神戸大学法科大学院で何を学んでいるか（学んだか）、実際の声もお届けします。

幅を広げる。

法律家にとって必要なもの—法科大学院で何を学ぶか

法学部長・大学院法学研究科長 窪田 充見



私の専門の民法を素材に、法科大学院での教育について、簡単に説明しましょう。民法が問題となる紛争には、売買や借地借家など契約をめぐるもの、交通事故など事故に関するもの、それに、離婚や相続をめぐる争いなど、さまざまなものがあります。このように対象となるケースは色々ですが、いずれの紛争においても、前提となる事実を探り、その事実適切に法を適用するということが必要となります。

こうした役割を果たす法律家になるためには、基本となる民法のルールを修得することが出発点になります。基礎的な知識がなければ、信頼ある法律家としての仕事はできません。法科大学院では、こうした教育のための基本法律科目の授業が手厚く用意されています。と同時に、どのように前提となる事実を見つけるのか、その事実をどのように評価するのか等、応用的な教育も必要です。実務家として活躍する先生方による実務科目のプログラムは、こうした教育を担っています。これらの教育は、法律家として仕事をしていくうえでの両輪となるものなのです。

【基本法律科目】対話型演習・憲法訴訟Ⅱ

「対話型演習・憲法訴訟Ⅱ」は、履修生と基本的に対話をする方式「対話型演習」という形式で運営し、現実社会で、事件として提起される憲法問題は何か、ということ憲法の判例という形で裁判所が示している憲法命題を中心に勉強しています。

憲法というと、何となく難しい、あるいは逆に、小学校、中学校、高等学校でも社会科目で学んでいるから簡単だ、と思う人がいるかもしれません。しかし、そんなに簡単でもなければ、取っ付くのが非常に困難というものではありません。

例えば、プライバシーという言葉は知っているはずですが、また、表現の自由という言葉も聞いたことぐらいはあるでしょう。でも、プライバシーの権利とはどのようなもので、どのような場合にプライバシーが侵害されるのでしょうか？

最近よくあるのは、インターネットで動画が配信され、たまたまそこに居合わせた私が映っていたような場合、私がいづ、どこにいて、何をしていたかがみんなに分かってしまいます。そのような動画の配信は、他方で情報発信として表現活動になるのではないかと。このような場合、プライバシーの権利と表現の自由が衝突してしまうわけですが、どちらも憲法上の権利だとすれば、どのように両者を調整すればよいのでしょうか。

あるいは、中学生が男女関係を露骨に描写するような漫画を学校に持ってきていたので、中学生にはふさわしくない漫画として、それを取り上げることを認める法律が存在していたことから、先生がその漫画を取り上げた。このような先生の行為が許されるのでしょうか。

以上のような問題を各回いくつか取り上げて、履修生諸君とおもしろおかしく、憲法問題はどこにでも転がっているのですということを知るように考えていくことが、「対話型演習・憲法訴訟Ⅱ」の目的です。

(教授・井上典之)



【実務科目】実務家教員担当科目の全体像

本法科大学院の実務科目は、法律実務に就く者に必要な基礎を学ばせることを狙いとし、学生が実務基礎能力・問題解決能力を自覚的に習得できるよう、カリキュラム、プログラムが以下のように充実したかたちで構成されています。

実務科目は2年次から始まります。そのうち「対話型演習法曹倫理」は、主に弁護士教員が担当しますが、裁判官教員、検察官教員にも一コマずつ担当してもらっています。法律実務家が執務に際し出会う問題状況を想定したケースを対話型演習方式で学ぶ仕組みになっています。次に弁護士教員の担当する「法律文書作成演習」があり、内容証明郵便、訴状、答弁書、準備書面、刑事弁論要旨等の基礎的な実務書面の起草を学ぶとともに、それに基づいて民事模擬裁判を経験し学習を深めます。さらに裁判官教員の担当する「対話型演習民事裁判実務」、検察官教員の担当する「対話型演習刑事裁判実務」があり裁判実務の基礎を学びます。

3年次には、「R&Wゼミ弁護士実務」「R&Wゼミ民事裁判実務」「R&Wゼミ刑事実務」などのゼミ科目を選べます。各ゼミとも、報告能力・事案分析能力・法令の解釈能力・起草能力・対論能力等々といった知識を獲得できるように工夫されています。講義科目では「刑事実務法総合」「刑事裁判実務」があり、刑事実務についてさらに理解を深めます。最

後に特筆すべきものとして、実務科目の総仕上げであるとともに、学理的アプローチと実務的アプローチの架橋を目指す「対話型演習総合法律」という演習科目があります。弁護士教員と各科目を担当する研究者教員が共同でこの演習を担当します。あらかじめ教員が各科目の課題を作成し、学生は自分が希望する課題を検討報告し起案を提出します。学生の報告と起案に基づき、指導教員が学理と実務の双方から討議を進めます。学生は、法科大学院で学んできた各科目について、その問題解決能力、つまり、事案分析・法令の解釈適用・起案・報告・討議の過程を学理と実務の双方から練り上げる機会を得られることになります。

(教授・山田隆夫(弁護士))



互いに協力し、切磋琢磨しながら前進中

ふつう、「大学院」と聞くと、「指導教官の先生がいて…、研究室があったり…、学生が各人の研究テーマについて…」というイメージがあるのではないのでしょうか。神戸大学法科大学院は研究者の養成もひとつの目的としていますが、主として行われているのは法曹に必要な知識と応用力を身につけるための「学習」です。この点で、上に掲げたイメージの大学院と法科大学院とでは少し異なっています。

私は神戸大学法学部出身で、学部では法律科目を中心に学びました。大学院と法学部で共通する科目の授業を比べますと、「内容が異質」ということはありません。ただ、大学院の授業では、個々の判例の意義や射程などの理解が問われる機会が増えましたし、実務家(弁護士、裁判官、検察官)の先生に教わる機会にも恵まれるようになりました。特に、実務家の先生の授業を通して、自分の勉強が社会にどのように繋がっていくのかをイメージする機会が増えました。また、授業形式にも違いがあります。大学院の授業の多くは、先生・学生間の質疑応答や学生相互間の議論を交えて進行するのです。このおかげで、「自分な

既修者コース・2年次(1年目) くどう ひろき 久渡 広樹

ら質問にどう答えるか」「なぜ先生はこのような質問をしたのか」などを考えたり、同級生の発言に刺激を受けたりしながら授業を受けることができています。

法科大学院では、学生全員が共通して学ぶ科目が多いので、学習面で学生が



互いに協力しやすい条件にあります。実際、私たちの間では、数人規模での自主勉強会が盛んに行われており(自習棟には勉強会用の部屋があります!)、このことも1つの特徴だと思います。

自分が法曹として社会で活躍するためには、広い意味でも狭い意味でも一生勉強し続けることが必要だと認識しています。神戸大学法科大学院には、学生の目線から見ても、その力を養うために十分な授業が展開されており、学習資源もそろっていると思います。

質を高めろ。

展開・先端法分野で活躍する人材の養成

実務法律専攻長（法科大学院長） 泉水 文雄

私は現在、法科大学院の責任者である実務法律専攻長を務めておりますが、教員としては展開・先端科目の1つである経済法（独占禁止法）を担当しています。先端・展開科目は、知的財産法、倒産法、経済法、労働法、環境法、国際経済法などがあります。これらの科目を学ぶことによって、法律基本科目の理解を深めるとともに、法曹になった後に取り扱う倒産事件、労働事件から知的財産や環境に係る事件までしっかりと対応できる能力をつけることができます。

私の関係する分野では、法律事務所での一般の契約のチェック等において独占禁止法等に抵触しないかの確認は不可欠なものになっています。さらに、独占禁止法を、また独占禁止法と知的財産権の両方の専門知識を用いて対応しなければならない事件が国内だけでなく国際的にも増えており、先輩方は国際的な場でも活躍しています。

【展開・先端科目】環境法

当法科大学院における環境法の講義は、環境法Ⅰ、環境法Ⅱ、リサーチ・アンド・ライティング（R&W）環境法の3科目（各2単位、合計6単位）からなります。環境法は、比較的歴史の浅い法分野ですが、新司法試験の選択科目の1つとなっています。世界的にみても、環境法が国家試験の法律関係科目の一つになっている例はないのではないかと思います。当法科大学院では、環境法専任の教員が授業を担当しています。この点は、全国の法科大学院の中でも数少ない例外といえます。

一口に環境法といっても、そこには多種多様な法規制が含まれています。大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音といった古典的な公害からはじまって、廃棄物・リサイクル法制、化学物質規制、オゾン層保護や気候変動の防止などの地球環境問題、自然保護・生物多様性の保護、文化財や歴史的な街並みの保存、日照・景観問題等々、実に様々です。環境法Ⅰでは、これらの法制度を猛スピードで（苦笑）概観します。できるだけポイントを絞って講義するように心がけていますが、それでも、90年代以降爆発的に増えた個別法規の密林に迷い込んだ印象をもつ学生も少なくないかもしれません（教師が悪いと言わないでください）。密林の中をそれでも進もうとする学生は、環境法Ⅱにおいて、公害・環境問題にか

かわる法的紛争について学ぶことになります。紛争当事者の視点で、当該問題についてどのような救済の途が開かれているかということ、これまでの訴訟事例等の検討を通じて学びます。環境法Ⅱと、その後に演習形式で行われるR&W環境法まで生き残ることができれば、個別の環境法規が、具体的にどのような形で私人の権利・利益、あるいは、具体的な開発プロジェクトに関わってくるかということを理解できた、と思うことができるでしょう。掲載されている写真は、密林を抜けた我が学生たちとの、R&W環境法における澁刺とした（I hope so）議論の風景です。

（准教授・島村 健）



【展開・先端科目】R&W ゼミ経済法

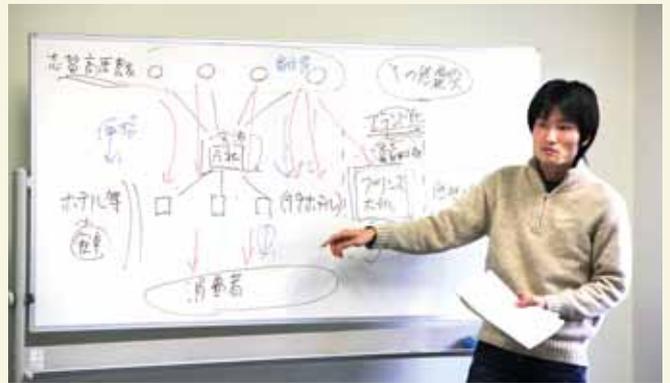
経済法なかでも中核となる独占禁止法は、市場シェアや競争者との競争の状況、輸入・参入の可能性、隣接する商品・地域からの競争圧力や、需要者の交渉力等の様々な具体的事実を、経済学の知見を活かして法的に評価し分析する力を身に付けるのがとても難しい分野です。そのため、裁判所や、独占禁止法を所掌する公正取引委員会で実際に問題になった裁判例、審決、排除措置命令や相談事例等をベースに作成した設例を使って、事案分析能力と文書作成能力、口頭発表能力を涵養しています。また、R&W ゼミはリサーチ・アンド・ライティング・ゼミですので、設例を検討するにあたり、関連する判決・審決を調査し、必要な評釈や法律文献を収集する資料収集能力も身に付けることが期待されています。

講義の進め方は前年度の経験を踏まえて毎年修正を加えていますが、概ね、受講生はゼミの前に予め設例を検討し、受講生のうちの複数名が担当者としてレポートを作成して事前に教員に提出します。ゼミでは、教員がコメントを付けて返却するとともに、それぞれのレポートを互いに参照して検討できるように、作成者を伏せることはせずに教員のコメントが記されたレポートをそのまま受講生全員に配布し、教員と学生間、学生間の質疑応答や議論によって、設例の分析の仕方と文章表現について検討していきます。また、ゼミでの議論をより良く理解し、充実させるために、受講生同士でゼミの前にお互いのレポートを共有しあうなど、学生同士でも工夫しているようです。

R&W ゼミ経済法は、新司法試験の選択科目として経済法を選択した学生が多く受講しています。3年次後期に開講されるため、翌年5月の新司法試験の本試験を見据えて、経済法I・IIで学習した内容を定着させ、経済法の観点から適切に事案を分析して説得的な文章にまとめる訓練の場としても活用しているようです。

1回の授業では具体的な事例を2件ずつ取り上げ検討していきますが、学生同士の議論が白熱し、100分の授業時間を超えてしまうこともあります。学生の皆さんが興味と熱意を持って積極的にR&W ゼミに取り組んでくれている証左であろうと思います。

(准教授・池田 千鶴)



能動的に学習する姿勢が必要

法科大学院では、授業が対話型で進められることにより、法律の条文の何が問題となって、どう考えるべきかを自分の言葉で相手に伝える力が養われます。先生からの質問に対して答えた場合、更に新たな質問がされることも多く、頭を捏ねたり、ひねったり深く学ぶことができます。

学部の際は、考えるというより覚えた知識を吐き出すというイメージでしたが、法科大学院では、自分の中で内容が理解できていないと、事案に沿った解決に導けないように感じます。

また、法科大学院では、実務科目と呼ばれる、実戦力を鍛えるための授業が用意されています。例えば、2年生では、弁護士の方から模擬裁判や法律文書の書き方を教えて頂く授業があります。また、授業外になりますが、長期休暇を利用して、裁判傍聴や検察官訪問なども経験することができ、手続きの手順を立体的に学ぶ良い機会になります。

先生方からの助力も大きく、授業後に長く質問に付き

既修者コース・2年次(1年目) まつうら まゆみ 松浦 真弓

あって頂いたり、オフィスアワーでも、疑問点を分かるまで突き詰め、解決できるまで付き合ってもらえるなど、本当に頼りになる存在です。

法科大学院での授業は、クラスごとに予習事項を検討しながら進める、という形態で行われるため、予復習を含め、能動的に学習することが求められます。言い換えると、授業や自習を通して学んだことを自分のものにできるかどうかは、自分自身にかかってくる面が大きいということです。そのような中で、司法試験合格という同じ目標を持つ仲間がいるということが、モチベーションを高めたり、学習が上手く行かなくて落ち込んだときに励まし合ったり、私の中で、非常に大きな力になっていると感じます。



卒業生からのメッセージ

裁判実務のダイナミズムを実感して

私は、大学卒業後、公認会計士として、主として金融機関の会計監査業務に従事しました。その中で、適切な監査を行うためには、会計だけでなく、法律の知識も必要であると感じるようになり、特に民事法分野で著名な教授が多数在籍する神戸大学法科大学院に入学したいと考えるようになりました。

実際に入学してみると、対話型中心の授業によって法的な思考力が鍛えられるとともに、専用自習室の24時間利用や法律文献・裁判例の検索システムの無償利用など、充実した学習環境の下、勉学に打ち込むことができました。また、私の周囲には、様々なバックグラウンドを有し、しかも、明確な目的意識を持った方が多く、同級生からは、法律の知識のみならず、勉強に向かう姿勢や目指す将来像についてなど、数多くのことを学びました。

目的意識を同じくする学友と学んだ貴重な2年間

私は、神戸大学法科大学院の2期生ですが、同期は仲間意識が高く、同じ目標に向かって切磋琢磨できたことが、司法試験合格に結びついた大きな要因だと思います。また、検察官は、最終判断を下すまでに、事務官の方など、多くの方と協力しながら仕事を進めますので、その際に必要な協調性も養われた気がします。

法科大学院では、一つの事例に対して、まず自分で解決方法を考え、次に学生間で議論を展開するというスタイルで学習が進められます。その中で、自分にはなかった発想や新たな物の見方が養われ、それが、今の仕事にもそのまま生かされていると感じます。事件には、一つとして同じパターンはありませんので、その都度、自分で最善の答えを見つけていく必要がありますが、大学の勉強で主となる「覚えて吐

き出す」という作業とは違い、一つの法律を応用するコツや姿勢といったものを身につけることができました。

私が最終的に検事の職を選んだのは、司法修習において検察庁での仕事を体験し、被害者や被疑者と最も近い距離で接し、事件の核心を深く追及していくことに、大きな魅力を感じたからです。前科がつくということは、人にとって非常に重いことですから、いかに被害者や被疑者と信頼関係を築き、その事件にとって最善の判断ができるのか…責任は重いですが、逆にそれ以上のやりがいを見出すことができると確信しました。私が罪を追及することで、2度とその人が犯罪を犯すことのないよう、一つ一つの事件を丁寧に扱い、自分らしさを持ち合わせた検事になることが、現在の目標です。

魅力的な教授陣に囲まれ、身につけた法的思考能力

「職業訓練としての勉強」。法科大学院での学習を一言で表すなら、こう言えるのではないかと思います。法的問題について解決方法を導き出す力は、すべての法曹に必要ですが、この能力は、単に法律や判例を覚えるだけでは、身に付きません。覚えるというよりも「法律を使う」、つまり、具体的な事実から、問題点を発見し、法律や判例を使って、自分の主張を組み立てる訓練をすることが大切で、それは、先生や学友と議論を交わす中で経験することができます。私は現在、法律事務所で主に企業法務を取り扱っていますが、今の仕事も法科大学院で学んだことがベースとなっています。このように、実務法曹としての思考能力を養う機会が用意されている点が、法科大学院の学習の特徴だと思います。

それから、神戸大学法科大学院は、何といても教授陣が魅力です。授業に学生からの要望を取り入れていただくこともありましたが、教授陣の評価制度

があるなど、教える側が自分たちに対して大変厳しい目をもっておられると感じました。法科大学院の場合は、社会人入学など、学生も人生をかけて入学しているところがありますので、それを踏まえての熱意を感じました。加えて、各分野で第一線の研究者として活躍され、また司法試験の試験委員に就任されている先生も多く、質の高い授業環境であったと思います。

私は、大学を卒業後、4年間企業に勤め、国内外の契約審査、交渉等の業務に従事した後、法科大学院へ入学しました。組織として意思決定がなされる企業とは異なり、弁護士には、基本的に自分で最終判断を出さなければなりませんので、そこに責任と魅力を感じています。

今後は、実務をこなす中で経験を積み重ね、依頼者のニーズに応える質の高い仕事をしていきたいと考えています。



大阪地方裁判所
判事補

久田 淳一さん

(名古屋大学法学部 1998年度卒業、神戸大学法科大学院 2006年度修了)



高松地方検察庁
検事

若井 真理子さん

(神戸大学法学部 2002年度卒業、神戸大学法科大学院 2006年度修了)



弁護士法人 淀屋橋・山上合同
弁護士

森田 博さん

(大阪大学法学部 1999年度卒業、神戸大学法科大学院 2006年度修了)

神戸大学法科大学院の魅力

充実の教育スタッフ

神戸大学法科大学院では、一学年80人の学生に対して、約50名の教員が教育に取り組みます。このため、教員一人あたりの学生数が非常に少なく、学生ひとりひとりの能力と個性を十分に把握したうえでの密度の濃い教育が可能となっています。また教授陣の多くは、旧司法試験や新司法試験の多くの試験科目で審査委員に就任するなど、法曹養成への重要な役割を果たしています。

平成 21 年度 (2009)	旧試	井上(憲法)
	新試	米丸【行政法】、山田(誠)【民法】、志谷【商法】、中西【倒産法】、山本(弘)【倒産法】、上嶋【刑法】、宇藤【刑訴】、泉水【経済法】
平成 22 年度 (2010)	旧試	井上(憲法)
	新試	角松【行政法】、山田(誠)【民法】、志谷【商法】、中西【倒産法】、上嶋【刑法】、宇藤【刑訴】、福田【刑訴】、泉水【経済法】
平成 23 年度 (2011)	新試	角松【行政法】、山田(誠)【民法】、志谷【商法】、中西【倒産法】、上嶋【刑法】、宇藤【刑訴】、福田【刑訴】

強力なサポート体制

24時間使用可能な専用自習室は、基本的文献や判例集、コピー機を常備し、ネットワーク環境も整備されています。法律や判例の情報をwebデータベースから入手できるほか、図書館・資料室には豊富な関連資料・法律雑誌が所蔵されています。また、法学未修者のために、TA(ティーチング・アシスタント)による相談窓口を設け、体験に基づく的確な助言を受けることもできます。



ゆるぎない実績

現在の司法試験は、法科大学院を修了した後、5年以内に3回まで受験することができます。また毎年の各校の修了生の合格率には波があります。そのため長期的な合格実績を見るほうが、各法科大学院の実績をより正確にはかることができます。

法科大学院設立後に最初の修了生が出た2006年から直近の2011年までの6年間の修了生総数における司法試験合格者総数の比率を計算し、上位15校まで示したのが下の表です。

神戸大学法科大学院は、一橋大学、東京大学、京都大学、慶應義塾大学に続き全法科大学院74校中5位であり、合格率も68.0%と大変高成績です。全修了者における平均合格率の43.0%と比較してもその高さは際立っており、司法試験合格率の低迷が問題視されるなか、きわめて健闘しています。この結果は本法科大学院修了生の努力のたまものですが、同時に優れた教育体制がそれを支えていることも疑いないところです。

1位	一橋大学	76.4%
2位	東京大学	71.1%
3位	京都大学	70.7%
4位	慶應義塾大学	69.4%
5位	神戸大学	68.0%
6位	千葉大学	65.6%
7位	中央大学	64.8%
8位	愛知大学	55.7%
9位	首都大学東京	55.7%
10位	北海道大学	53.7%
11位	名古屋大学	53.5%
12位	東北大学	52.7%
13位	早稲田大学	51.6%
14位	大阪大学	51.5%
15位	大阪市立大学	47.0%
全体平均		43.0%

法曹養成に対する社会の期待に応えるために

本法科大学院は、すべての法曹に必要な基本的な知識の習得と、その知識を多様な現実社会で使いこなす豊かな応用能力の育成を目標としています。ここでご紹介したさまざまな授業科目や在学生・卒業生からのメッセージから、私たちのめざしているものをご理解いただければと思います。

24時間利用可能な自習室などの恵まれた学習環境を生かしつつ、学生達はお互いに切磋琢磨しています。教員達は、授業の改善に日々努めながら、学生の質問などにきめ細かく対応しています。そして、フランクで開かれた雰囲気の中、学

生と教員は相互の信頼関係を築き上げてきました。このような努力、熱意、信頼関係が、本法科大学院の特徴であり誇りです。一人ひとりを大事にした法的サービスを提供する職業法曹を養成するのにふさわしい教育環境を実現できていると思っています。

私たちは、「国民の社会生活上の医師」を育てるためのこのような「場」をこれからも提供することで、職業法曹養成に対する社会的期待に応えていきたいと思っています。

この特集は、次の教員と法学研究科広報委員会が担当しました。
角松生史 教授 馬場健一 教授 (50音順)



特集 神戸大学のキャリア支援

神戸大学キャリアセンター

神戸大学キャリアセンターは、鶴甲第1(国際文化学部)キャンパスA棟1階にあります。全学キャリア・就職ガイダンスの開催、インターンシップやキャリア形成・就職情報などの提供、また進路や就職についての相談に応じています。今回は、このキャリアセンターの活動などについて、ご紹介したいと思います。

激変する時代とキャリア支援

2008年秋のリーマン・ショック、その余波を受けて深刻な不況が続いた2009年、外国人採用が加速した「グローバル採用元年」の2010年、そして巨大地震による津波と原発事故で日本列島に激震が走り、タイでは大洪水が起こった2011年、さらに2012年になっても留まるところを知らぬかのように進行する円高。このように時代は予想もしない出来事が次々に起こり、激変する時代とともに、おのずと就職環境や社会が求める人材も変わっていきます。

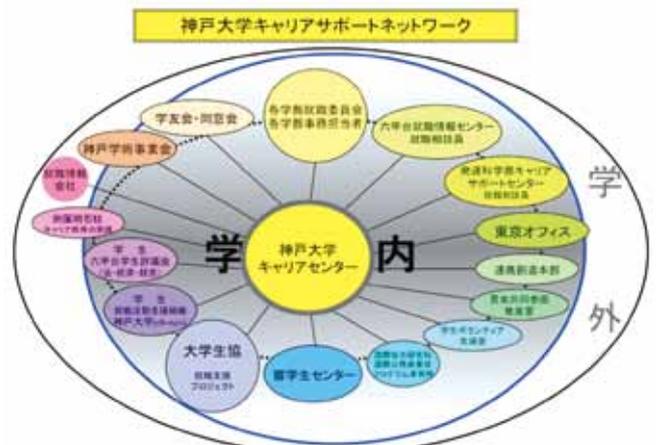
また、2011年は、文部科学省から各大学に対して、就職実績等を含む教育情報公表の義務化が求められ、さらに大学設置基準の改定によって、キャリア教育(社会的・職業的自立に関する指導等)の法令化が始まりました。あるいは経団連の倫理憲章による企業の広報・選考活動の遅延化、具体的にいえば、選考を前提とする企業説明会が12月開始となり、学生の就職活動や大学の就職支援に多大な影響を与えた年となりました。

このように激変といってもよいほど絶えず変化する状況のなかで、神戸大学のキャリア教育や就職支援は何をめざすべきでしょうか。ここでも不易流行の複眼的視点が重要です。

「流行」の部分では、時代の動向とそれとともに変化する企業や官公庁の採用条件、そして年々微妙に変わっていく学生の意識を感度の高いアンテナで受け止め、それらを、キャリア科目やガイダンスや就職相談などの内容に反映していかなければなりません。たとえば、全学キャリア科目「職業と学び」においても、「グローバル採用元年」となった2010年度の講義テーマには、グローバル化やグローバル・リーダーシップといったキーワードが浮上しました。

しかし一方で、もし「不易」の部分を見失えば、大学における真のキャリア教育・キャリア支援を実現させることはできません。それは、幅広い視野と総合的判断力を可能にする教養、専門知識の修得を通して身につく考え方や自ら学ぶ力、困難な状況でも失敗を恐れず挑戦する勇気とたくましい行動力、異なる多様な価値観を理解しつつ自分の考えを発信する力、自分から人間関係を構築する力などの育成です。これらは、神戸大学のモットーである「真摯・自由・協同」の精神と実践が指し示すものと見事に符合しています。

そして、「神戸大学の使命」が謳う「人間性豊かな指導的人材の育成」こそ、どんなに時代が移り変わろうとも、私たちが目指すべきキャリア教育・キャリア支援の理念なのです。



神戸大学のキャリア支援もまた、真摯・自由・協同の精神をもって、ハブ組織であるキャリアセンターを初めとして、各部署、各関係組織からなるネットワーク型支援体制で展開しています。

ボランティアとキャリア支援

2012年4月から、キャリアセンターは「キャリア支援部門」と「ボランティア支援部門」の2部門制をとることになりました。キャリア支援部門は、従来のキャリアセンターの機能と活動を担当し、ボランティア支援部門は、既存の「学生ボランティア支援室」の活動を引き継ぐこととなります。

学生ボランティア支援室は、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援GP」に採択された「地域に根差し人に学ぶ共生的人間力」プログラムにより、2008年度に都市安全研究センターの一組織として設置されました。発足以来、阪神・淡路大震災の経験を踏まえて、学外の災害ボランティアやNGO・NPO等と連携しながら、震災救援に取り組む各地の学生の交流促進、震災・防災授業の企画実施、能登半島および佐用町などの被災地へのボランティア活動支援、また災害ボランティアだけでなく、外国人留学生、外国人児童、障がい者、老人施設、町おこし、ホームレス支援等の学内外の日常的なボランティア支援も積極的に推進し、さらに学内の多様な学生ボランティア団体のネットワーキングにも力を注いできました。

そして、2011年3月11日、東日本大震災。元来、国立大学の多くはボランティア活動を支援する組織をもっておらず、被災地や被災地に近い国立大学のなかには、学生たちおよび被災地のニーズに応じて、急遽、ボランティア支援組織を立ち上げたところもありました。例えば、千葉大学の「ボランティア活動支援センター」、東京大学の「救援・復興支援室（ボランティア支援班）」、東北大学の「東日本大震災学生ボランティア支援室」などです。理事や副理事がボランティア支援の責任

者を務めるなど、大学によってはかなり本腰を入れています。

そのような状況において、神戸大学は、17年前の阪神・淡路大震災の被災地であって豊富なボランティア経験を有する大学として、積極的にボランティア活動とその支援に取り組み、あるいは、各地の大学からの助言の求めに応えるなど、大いに存在感を示しました。やはりそれも、学生ボランティア支援室がすでに十分に機能していたからだといってもよいでしょう。

災害だけに限らず、一般にボランティア活動は、社会とつながり、市民と交流しながら解決すべき課題に率先して取り組んでいくところから、市民的責任感、コミュニケーション力、リーダーシップの育成にも大いに資するものです。ボランティア支援部門の新設によって、これからの神戸大学におけるキャリア教育やキャリア形成支援は、一層の深化を遂げると大いに期待されます。



キャリアセンターと学生ボランティア支援室発行の冊子



2012年4月から2部門制となる新しいキャリアセンターの組織イメージと活動理念

キャリアセンターホームページ <http://www.career.kobe-u.ac.jp/>
学生ボランティア支援室ホームページ <http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>



2011年度後期全学キャリア科目「職業と学び」の授業風景（ネスレ日本社長 高岡浩三氏 経営学部1983年卒）

全学キャリア科目を受講した学生の感想

キャリアセンターが発足する1年前の2006年に、神戸大学で初めてとなる、全学共通のキャリア教育科目「総合科目Ⅱ」がスタートし、社会で活躍する神戸大学卒業生によるリレー講義「職業と学び—キャリアデザインを考える」（キャリアセンター担当）が実施されました。開講時間は木曜日の5限で、対象は1年生です。これに続いて、2010年度からは、第一線で活躍する社会人ゲストスピーカーによるリレー講義「企業社会論—社会に学びキャリア形成を考える」（連携創造本部担当）が始まりました。

いずれも、講師たちの仕事現場でのエピソードや、豊富な職業・人生経験から、学生たちは多くの知識や知恵を得るとともに、大学での学びや生活の一層の充実にも努めようとしています。ここでは、「職業と学び」の授業を実際に受講した1年生の声をご紹介します。

まず、講義を担当して下さった講師の方、全員に共通していることは、目がキラキラと輝き、生き生きとお話されていたことです。

自分の仕事を楽しみ、そして、誇りを持っておられるからこそ、先生方は輝いているのだらうと感じました。そして、その姿を見ているうちに、自分も将来、先生と同じような仕事に就きたいと思うようになり、自分の進むべき道・目標が見えてきました。

また、全学キャリア科目を受講したことで、今まで知らなかった仕事について知ることができましたし、知ってはいたけれど、あまり詳しく知らなかった仕事に対しても、深い知識を持つことができました。さまざまな仕事について知ることが、新しい世界を知ることにつながり、さらに自分の可能性が広がったように感じます。

将来の自分の進むべき道、方向性が明確にできず、曖昧な状態のままだった私にとって、この全学キャリア講座は、とても参考になる講義でした。これからも大学内において、このような講義をどんどん増やしていただきたいと思います。

この講義のそれぞれの回で強く思ったことは、「興味のあることに一生懸命打ち込むことから道は拓ける」ということです。興味を持ったことに具体的に取り組んでいく中で、将来やりたいことが見えてきたり、必要な力が身につくことを実感しました。例えば、イギリスに興味を持って留学した先輩がナショナルトラストの運動に興味を持ち、環境に関わる仕事に就いたり、テニスに打ち込んでいた先輩が、コーチをする中でプレゼン能力や人をまとめる力を身につけ、社長になったり、一生懸命自分の興味と向き合う中から見えてくるものはたくさんあると思います。

そして、今必要なのはささやかでもいいから、「こうなりたい」という志を持つことだと気づきました。「志」を持ち、目の前のことに一生懸命取り組みながら自分の道を切り拓いていきたいです。そして私も講演して下さった先輩方のように、自分の仕事に誇りを持ち、きらきらと輝ける人になりたいです。本当にこの科目を受講してよかったです。ありがとうございました。

（注）全学キャリア科目の目的や趣旨あるいは講師陣等、授業概要の詳細については、キャリアセンター発行『就職ガイドブック』（2011年10月発行）、あるいは次のホームページをご覧ください（2011年度の場合）。

「職業と学び」 <http://seagull.coop.kobe-u.ac.jp/recruit/career2011.pdf>

「企業社会論」 <http://seagull.coop.kobe-u.ac.jp/recruit/career2011-2.pdf>

就職活動を終えた学生からのメッセージ

就職活動は、学生を大きく成長させます。多くの学生にとってみれば、まさしく一皮むける経験といってよいでしょう。そんな就職活動を終えた学生たちの声は、実に頼もしいものがあります。いたずらに不況や就職環境のせいにするのではなく、果敢に自分が掲げた目標に向かってチャレンジしつつ、時には落ち込み、失敗や挫折を経験し、苦しい思いも乗り越えながら、卒業後の職場を選択していきます。そのような就職活動を体験して、たくましく成長した学生の声に耳を傾けてみましょう。

就職活動は私にとっては想像していた以上に苦しいものでした。時間をかけて一生懸命考えたエントリーシートが落とされ、きっちり準備して面接でうまく話せても落とされたりと、努力が報われないことばかりでした。しかし、だからこそ内定をいただけた会社には感謝の気持ちでいっぱいです。苦しくてもあきらめずに頑張っていれば、最後には自分にとっても合う会社が見つかると思えました。

私は就職活動を始める前には「知名度のある大手企業に行けたらいいな」と漠然と考えていましたが、就職活動をしている中で一番大事なことは「自分が何をしたいか」と強く感じました。決して順風満帆な就職活動ではなかったので偉そうなことは言えませんが、これから就職活動をする学生の方には企業の規模や知名度に捉われすぎずに「自分が何をしたいか」を早いうちからしっかり考えてほしいと思います。それが内定への近道だと思います。

(理学研究科博士前期課程 化学)

初期は多くの業界、会社の話を聞く。話の中で"良い""悪い"と感じたことを素直にメモする。そうすると、軸(自分の好きな環境)が見つかりやすいと思います。

1人にならない。行き詰ったり、自分のことが分からなくなったら友人・家族・自分をよく知る人に会うことをオススメします。関ってきた人の中に自分の良さがあることもあります。

ありのままの自分を信じる。体育会系部活動の部長でなくとも、サークルをたちあげなくても大丈夫です。自分が本気で頑張れたこと、その時の気持ちを思い出して、良さを見つけて下さい。リーダーだらけでは会社はやっていけないと思うので。

不合格通知がきた時も、縁だとわりきる強さを。思っていた以上に多くの会社に落ちました。自分が悪いのだと自信をなくしそうにもなります。私は「合わない会社に合格しなくて良かった」と無理にでも思うようにしました。絶対に自分を否定しないで下さい。

(発達科学部 サービス)

就職活動中は、いろんな人から「今年は厳しくて可哀想だね」という声を掛けられました。実際は、はっきり言って実感はありません。景気がいい時にやったこともないし、私にとってはこの一回だけで、比べられないからです。好況のときにはまた違った苦労があるはず。今回は不況ですが、いい面もあるはず。とにかく、その年活動する人の条件は皆同じで、やるしかないのです。

また、不況だからこそ、ちゃんと就職活動と向き合えたことに

感謝しています。企業の採用担当者も学生を真剣に見てくれますし、こちらも苦労して入るのだから、真剣に企業を見ます。たくさん落ちるから、たくさん考えます。不況でなければ、自分の中でうやむやにしてしまったこともあるのではないかと思います。そう考えると不況もいい機会でした。

「不況」は考え次第でいいヤツにもなります。自分なりの「不況」の捉え方を探して、気持ちよく活動して下さいね!

(国際文化学研究所 機械)



新入生と家族のためのキャリアガイダンス (2011年4月2日開催、六甲台講堂)



学内合同企業説明会 (2011年12月10・11日開催)

(注) 就職活動を体験した学生たちの報告やメッセージは、キャリアセンター発行『就職ガイドブック』(2011年10月発行他)や、あるいは各年度のキャリアセンター主催のキャリア・就職ガイダンス一覧を示すホームページで、パネルディスカッション等に出演してくれた内定者たちのコメントなどで読むことができます。 <http://www.kobe-u.ac.jp/campuslife/employment/guidance.htm>

(この特集は、キャリアセンターが担当しました)



学生寮の今昔

附属図書館大学文書史料室講師 野邑理栄子

神戸大学の魅力の一つに、学生寮の充実が挙げられます。神戸大学には現在、住吉寮、女子寮、^{こくい}国維寮、住吉国際学生宿舎、白鷗寮の5つの学生寮があり*、平成生まれの住吉国際学生宿舎を除き90年以上（最古の住吉寮は135年）もの長き歴史と伝統を有しています。寮生定員1,078人。2010年公開の村上春樹原作の映画「ノルウェイの森」（松山ケンイチ主演）では、監督の希望により住吉寮と国維寮が主要ロケ地の一つとなり、寮生もエキストラで出演して話題を呼びました。現在改修工事が進み現代的な学生寮として新たな歴史を刻みつつあります。

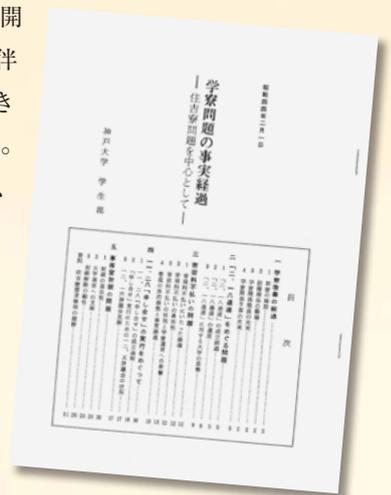
※（注）神戸大学には現在5つの学生寮のほか、外国人留学生・研究者のための宿舎として神戸大学インターナショナル・レジデンスがあります。

神戸大学学生寮の歩み

神戸大学設置当初1949年の学生寮は、旧制神戸経済大学国維寮を引き継いだ法学部・経済学部・経営学部国維寮（高尾学生寄宿舎）、旧制兵庫師範学校男子部住吉寮を引き継いだ教育学部住吉寮、旧制兵庫師範学校女子部寄宿舎を引き継いだ明石女子寮、旧制姫路高等学校^{はくりょう}白陵寮を引き継いだ姫路分校白陵寮の4つでした*。当時の寮は各学部・分校で管理されていましたが、1960年代半ばの教養部設置、分校廃止、六甲台への学舎統合、県立大学の国立移管を背景として、寮の統廃合、木造から鉄筋への改築、学部の寮から全学の寮への転換が行われ、住吉寮、女子寮、国維寮の3寮体制となりました。その直後、暖房燃料費の負担をめぐって寮生と大学側の対立が深まり、1968年一部の住吉寮生が本部事務局及び学生部の建物を占拠して封鎖、これを機に神戸大学紛争が全学で勃発しました。1997年、国際化に

対応して住吉国際学生宿舎が開寮、2003年海事科学部設置に伴い旧神戸商船大学白鷗寮を引き継ぎ、現在の5寮体制が完成。2010年国維寮が老朽化で閉寮、改修工事を経て2011年再開しました。なお、2013年度までに全学生寮の個室化・耐震改修工事が終了する予定です。

※（注）神戸大学設置当初には他にも旧制神戸経済大学予科忠誠寮がありましたが1950年廃止されました。また1957年姫路分校女子寮しらざぎ寮が開寮しましたが、1964年明石女子寮と共に同年開寮の女子寮に統廃合されました。



神戸大学紛争の発端となった「住吉寮問題」を説明する冊子（1969年）

多様な寮文化

学生寮では長き歴史の中で、寮生による多様な寮文化が生まれました。

【寮自治】

学生寮の最大の特徴は「寮自治」です。寮自治とは、寮生自らが寮の運営を行うことであり、現在も神戸大学の学生寮では基本的

に寮生の自治によって運営されています*1。全寮生から選出された寮長を中心に数名の役員で構成される寮自治会が、会計、書記、文化など各種の役務を分担し、寮生の部屋割り、入寮生歓迎行事、寮祭、寮生大会その他行事を主催。行事には全寮生が原則参加します。寮自治は、寮生が自発的に考え行動し、寮生自身が決めたルールに従い生活する“自主自律”の精神で成り立っています。

※1（注）現在、国維寮では、寮生の大半が外国人留学生のため、寮生による自治は行われていません。



住吉寮の寮祭での仮装行列（1968年頃）



神戸商船大学白鷗寮の新生あいさつ大会（1979年）

【ストーム】

寮文化の中で特に異彩を放っているのが「ストーム」です。これは、寮生の「集団バカ騒ぎ」を指します。夜に行われることが多く、大勢が寮歌を高唱したり鍋や洗面器を打ち鳴らし裸踊りを乱舞したりして騒々しく寮内や町内を練り歩く。そのドンチャン騒ぎの喧噪と破壊力は、暴風雨をもたらす嵐 (Storm) のようにすさまじく、時には勢い余って寮の窓ガラスを大量に叩き割り、ボウフラがわいた防火用水の汚水を廊下や布団にひっくり返し、市街に練り出して騒ぎ回り市民や警察からお叱りを受けることもありました。現在は、近隣住民への配慮や私生活を大切にす寮生の風潮などを背景に、姿を消しています。



旧制姫路高等学校白鷗寮のストーム（昭和初期）

【寮歌】

日本独自の学生歌「寮歌」とは、寮生活の中で寮生によって作られ歌われた歌を指すのが基本ですが、寮の歌に限らず、校歌、記念祭歌、運動部歌、応援歌、逍遥歌、俗謡調なども広義の寮歌に含まれることが一般的です。美しいハーモニーよりも、蛮声を張り上げて豪快明朗に高唱することが良しとされ、先輩が後輩に口伝で教えることが多く、大半が原曲とは異なる歌いやすい形で伝承され次第に変化していきました。そのため同じ寮歌でも

世代によって曲調や歌詞が異なる場合がほとんどです。神戸大学では、旧制神戸高等商業学校「商神」「大旆」「春筒台」、旧制神戸商業大学予科「瀬戸の浦波」、旧制姫路高等学校「白陵歌」、神戸大学姫路分校「白陵寮歌^{*2}」、住吉寮寮歌など数多くの名歌名曲が存在しますが、現在、寮歌が歌い継がれているのは白鷗寮だけで、今でも旧制神戸高等商船学校寮歌（白波寄する東明の…）が愛唱されています。

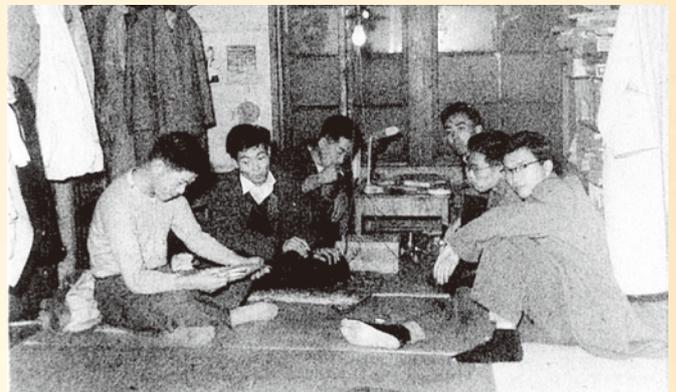
^{*2}（注）神戸大学姫路分校では「白陵歌」を「白陵寮歌」と呼びました。



旧制神戸経済大学予科思誠寮で寮歌を高唱する寮生（1944年）

【共同生活】

個室（1人部屋）が正式に設置されたのは、1997年竣工の住吉国際学生宿舎が最初です。それまで1部屋2〜7名の同居が基本とされ、学年が異なる複数名の相部屋暮らしは、多様な寮文化を創出する土壌となりました。現在は、国際化への対応や寮生の私生活重視の風潮などを背景に、学生寮の全室個室化と耐震を目指した全面改修工事が進行中です（2013年度終了予定）。相部屋での集団の共同生活は、徐々に姿を消しつつあります。



木造時代の国維寮（1957年頃）

【寮雨（窓シオン）^{りょうう}】

「寮雨」は、男子寮だけに伝わる特異な風習です。別称「窓シオン」とも呼ばれ、部屋の窓から外に向かって放尿することを指します。豪放自由闊達（加えて少々迷惑）な寮文化の一つでしたが、木造から鉄筋に改築された1960年代半ば頃から姿を消し、現在は行われていません。



神戸商船大学の南教室仮寮時代の寮雨（1952年）

現在の5つの学生寮

神戸大学には現在5つの学生寮があり、その概要は下記のとおりです(設備や必要経費等の詳細はホームページでご確認ください)。

住吉寮(男子寮)

住吉寮は学内最大最古の男子学生寮です。1877年開寮の旧制神戸師範学校寄宿舎の系譜を引いており130年以上の歴史をもっています(1938年に住吉寮と命名)。現所在地は神戸市東灘区住吉山手7丁目(旧住吉村赤塚山)です。1964年木造2階建てから現在の鉄筋4階建てに改築。全室2人部屋でしたが、2006年度より順次1人部屋に改修中です(2013年度終了予定)。現在定員388人、寄宿料月額2人部屋700円、1人部屋5,900円(改修後18,000円)。食堂では日替わり夕食を1食350円で提供(2012年度末食堂及び共同浴場廃止予定)。新歓コンパ、寮生大会、寮祭、防災訓練、もちつき大会&新年会など多彩な行事があり、毎年6月の寮祭は地域住民との大切な交流の場です。



住吉寮の一室(現在)



住吉寮(現在)



女子寮

女子寮は1903年開寮の旧制兵庫県明石女子師範学校寄宿舎の系譜を引いており100年以上の歴史をもっています(1964年に女子寮と命名)。男子禁制を厳守し、父親と言えども居室に立ち入ることは許されません。毎年6月には住吉寮・住吉国際学生宿舎と合同で寮祭を開催しています。現在定員156人、居室は4人部屋(現在3人部屋として運用)、寄宿料月額700円(改修後18,000円)、食堂の日替わり夕食1食320円ですが、2012年度には全室1人部屋に改修され食堂及び共同浴場が廃止される予定です。



女子寮の一室(現在)



女子寮(現在)



住吉寮・女子寮・住吉国際学生宿舎合同の寮祭でのスイカ割り(2011年6月)

こくい 国維寮 (男女混住寮)

国維寮は1908年開寮の旧制神戸高等商業学校寄宿舎の系譜を引いており100年以上の歴史をもっています。1939年に旧制神戸商業大学初代学長田崎慎治が国維寮と命名しました。現所在地は神戸市灘区高尾通3丁目です。1967年木造2階建てから現在の鉄筋5階建てに改築。2010年には老朽化が進み耐震性が基準以下の危険建物として閉寮となりましたが、改修工事を経て2011年主に外国人留学生を受け入れる全室1人部屋の男女混住寮として再開しました(旧来は日本人学生中心の2人部屋の男子寮でした)。現在定員



国維寮の一室 (現在)

134人、寄宿料月額18,000円、共益費月額3,400円です。



国維寮 (現在)

住吉国際学生宿舎 (男子寮 (男女混住寮に改修予定))

住吉国際学生宿舎 (通称「B棟」)は1997年開寮しました。国際交流の推進を図るために設置された日本人学生と外国人留学生の混住寮です。開寮当時は学内唯一の全室1人部屋の学生寮でした。所在地は住吉寮に隣接し、寮自治会や年間行事も住吉寮との合同です。現在定員136名、寄宿料月額4,700円、共益費月額3,000円です。現在は男子寮ですが、2012年度に一部を女子用に改修予定です。



住吉国際学生宿舎の一室 (現在)



住吉国際学生宿舎 (現在)

はくおう 白鷗寮 (男女混住寮)

白鷗寮は1919年開寮の旧制川崎商船学校寄宿舎の系譜を引いており90年以上の歴史をもっています。1954年現所在地(神戸市東灘区本山南町1丁目(旧本山町中野))に神戸商船大学白鷗寮として竣工。1995年阪神・淡路大震災では、寮生が倒壊家屋の下から百名近い近隣住民を救出し内閣総理大臣から表彰を受けました。2001年開始の改修工事で4人部屋から全室1人部屋(1ユニット4個室)、男子寮から男女混住寮へと変わり、2003年神戸大学白鷗寮となりましたが、旧商船大の伝統行事である新入生あいさつ大会や早朝訓練は今も健在です。礼儀・マナーを定めた「寮生の心得11ヶ条」が厳守され、来賓者には誰にでも明るく元気に挨拶する習慣をもつ



白鷗寮の一室 (現在)

はこの寮だけです。1年生男子が交代で夜の当直をする学生当直制度もあり、近隣住民との大切な交流の場として納涼祭やもちつき大会も毎年開催されています。現在定員男子232人、女子32人、寄宿料月額5,900円、光熱水量費等月額17,000円です。



白鷗寮 (現在)

「紫陽会賞」を創設しました

発達科学部同窓会『紫陽会』は、今年度から紫陽会賞を制定、第6回ホームカミングデイ学部企画に於いて第1回授与式がもたれ、宮嶋紫陽会会長からクリスタルガラスのトロフィーと金一封が受賞者に贈呈されました。

同窓会独自の賞をとの構想は、かなり以前から持ちつつも細部がなかなか煮詰まらず徒に時間が経過してしまっていた懸案事項でした。

この度ようやく、学部・大学院在籍の準会員も含め学術・芸術文化・スポーツ・社会貢献の各分野で優れた功績をあげた紫陽会会員や団体に、その優れた実績を顕彰する目的で贈呈することになりました。

記念すべき第1回受賞者は次の方々(団体)です。



1. 「東日本大震災地救援ボランティアグループ」及び「はこべプロジェクト」の皆さん(いずれも学部・大学院在籍の準会員)

地震発生の翌日3月12日早くもチャリティコンサートを始めた「はこべプロジェクト」の皆さん、ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの呼びかけに応え文房具支援に

奔走した皆さん、大船渡市を中心に4月30日から10日間(9月にも実施)災害復旧に尽力した皆さん方の熱い心と機敏な行動力を高く評価しました。

2. 白岩卓巳氏(教育学部昭和32年卒)

神戸市立の教員時代から主に神戸周辺植物の生態研究を継続され、「神戸のシダ」「アリマウマノズクサ」「六甲山のブナとイヌブナ林(共著)」など優れた成果を発表されていますが、とりわけ昨年発表の「牧野富太郎と神戸」は埋もれていた牧野博士の神戸における足跡が、南蛮美術館の収集家池野孟との出会いを織り交ぜ綴られていて、歴史資料としても高く評価されています。



「ミャンマー神戸大学同窓会」が発足

海外同窓会が発足する経緯は様々でしょうが、昨年度発足した「ミャンマー神戸大学同窓会」は、神戸大学の海外拠点として、ちょうど10番目の同窓会になり、これまでのものとは、卒業生の人数などからいえば規模の小さいものではありませんでしたが一味違ったものとなりました。そもそもの発端は、発足にあたって会長に選出されたティンエイエイコ氏(文化科学研究科2003年修了)が、2011年1月にバンコクで開催された第1回神戸大学グローバルリンク(KUGL)フォーラムで同窓会設立の熱い思いを語ったことにあります。留学生センターは発足にあたり、卒業生に対しても常に一人ひとりの要望に応え、かつ実現を手助けしていくという在学中と同じ基本的スタンスで臨み、主体的に関わりました。

発足式は2011年9月25日に旧首都ヤンゴンにおいて開催され、活気に満ちた式典になりました。発足会の冒頭にあって在ミャンマー日本国大使館特命全権大使齊藤隆志氏の祝辞を頂きましたが、「今年に入ってミャンマーに新政権が樹立されて以来、世界中が注目する中、神戸大学という日本でも有数の国立大学において勉強された方々が、ミャンマーに帰国された後も同窓会を通じて、日本の友人で居続けることは、日本大使館としても大いに喜ばしく、励みになる」という言葉が本同窓会設立の意義を端的に表しているようです。ミャンマー元日本留学生協会(MAJA)会長、JICAミャンマー事務所長、ヤンゴン日本人会会長、ヤンゴン日本人商工会議所会頭等、多数のVIPが駆けつけ、我々神戸大学のスタッフは現地の

注目の大きさに驚いたものでした。なお、2011年10月に開催された第8回神戸大学留学生ホームカミングデイにおいて、ティンエイエイコ会長が自ら六甲ホールにて同窓会の活動状況について披露し、福田学長自らによって同窓会旗が手渡されました。

短期間のうちに、神戸大学同窓生の力が一つに集約され、同窓会の準備会が関係機関とすでに機能的に連携するようになりましたが、おりしも、ミャンマーの国自体が変化し、同国と日本とのつながりが急速に活発になると時を同じくしており、将来の展望から言えば、他の既存の海外同窓会に劣らず大きな可能性を持っていると言えましょう。

(留学生センター教授 河合成雄)



育友会の2011年度地区支部会が開かれました

育友会の地区支部会は、神戸大学との連携強化を図り、会員皆様のご要望などを神戸大学運営に反映し、社会のニーズに対応した神戸大学づくりを目的に、2005年度から「東日本」、「中部」及び「中国・四国・九州」の3地区で開催しています。

2011年度は、3地区のトップをきって9月11日、昨年ご要望の多かった九州（福岡市内）のホテルにおいて中国・四国・九州地区支部会を開催しました。例年より九州地区にお住まいの会員が多く55人の参加がありました。続いて10月8日、神戸大学東京六甲クラブ（東京都千代田区）にて開催した東日本地区支部会には会員17人の参加があり、遠くは新潟県や群馬県からも来られました。そして2011年度の最後として、10月23日名古屋市内のホテルで開催した中部地区支部会には、日程の都合で他地区の支部会に参加できなかった香川県や長野県からの参加者も含め、46人の参加がありました。

三会場では、各地区支部長の司会進行により、中国・四国・九州地区及び東日本地区支部会では石田廣史副学長から、中部地区支部会では、田中康秀副学長から「神戸大学の概要・教育・学生生活について」の講話があり、内田正博キャリアセンター長からは「神戸大学の就職支援の現状・就職状況について」の説明がありました。

中国・四国・九州地区支部会に参加した会員からは「九州での開催を3年に一度ではなくもう少し頻度をあげて欲しい」「土曜日開催を希望します」などたくさんの声を聞くことができました。東日本地区支部会はほとんどの参加者が毎年続けて来ている会員の方々なので、支部会の充実度がうかがえました。中部地区支部会では会員から成績表やボランティア活動に

についての質問等があり、出席した大学関係者から詳しい回答説明がありました。

引き続き行われた懇親会では、大学関係者を囲み忌憚のない意見交換や会員間での親睦も図られ、神戸大学と育友会の連携がますます強化される契機となるなど、所期の目的を達成し終了しました。

■神戸大学育友会への入会について（お願い）

本会は、保護者の皆様から納めていただいた会費により、学生の課外活動の援助や神戸大学の発展に寄与するための各種事業を行っています。多数の方々のご協力に感謝いたしますとともに、納めていただいた会費につきましては、次の事業目的を達成するために有効に使わせていただきますので、趣旨をご理解のうえ、まだご入会いただいていない場合は是非ともご入会いただきますよう、よろしく願いいたします。

1. 事業目的

- (1)教育上必要な学生関係行事や課外活動の援助などを行い、充実した学生生活が営まれるよう種々の事業を行う。
- (2)学生生活に有益な大学の情報を提供するとともに、会員相互の親睦を図る。

2. 会費の納入等

会費の納入等の詳細は、次へご連絡願います。
神戸大学学務部教育支援課学務グループ
電話：078-803-5213



保健管理センターだより



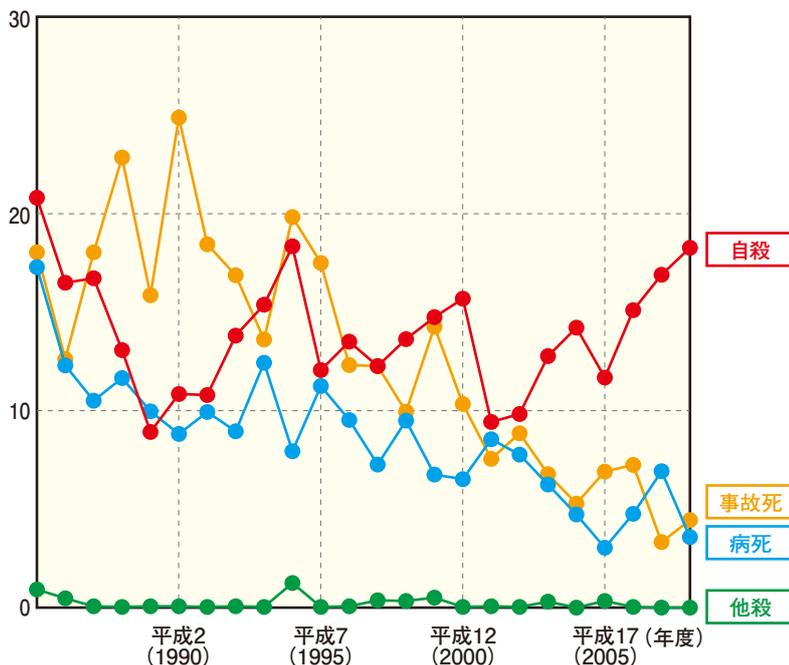
不安、気分の落ち込み、憂鬱・・・ いつでも保健管理センターへ！

新学期がスタートします。学年が進んで専門科目や実習が増えたり、就職活動を開始する皆さんもおられることでしょう。新入生の皆さんにとっては高校生から大学生へと生活が一変。親元を離れる方にとっては、環境の変化はさらに大きいものになります。大学生活の中で不安を抱えたり、気分が落ち込んだり、憂鬱になったりということもあるでしょう。それは誰にでもあることですが、2週間・3週間・・・と続く時は要注意。保健管理センター「こころの健康相談」に来てみてください。カウンセラーや精神神経科医が心のサポートをいたします。20歳代は鬱病の好発年齢でもあるのです。

ちょっと変かな？と思ったら早めの相談を！

なんとなく「憂鬱」「悲しい」「涙が出る」「いららする」といった抑鬱気分、「寝付けない」「熟睡できない」「起きれない」といった睡眠障害、物事に興味や感動が湧かない、食欲が減った（増えた）、焦燥感が強い、体が思うように動かない、疲れやすい、気力がない、罪責感や死にたい気持ちに襲われるなど、鬱病の症状はさまざまです。特に大学生のように若い世代では、症状が典型的でなく見逃されることも少なくありません。自分でも気付かないうちに、鬱病になってしまっていることもあります。鬱病になるきっかけは、悲しい出来事や過労だけではありません。環境や季節の変化、体調不良なども原因になることがあります。ちょっと変かな？と思ったら早めに相談することが大切です。様子がおかし

(学生10万比)(人)



(図1) 大学生における死因別死亡率の推移
～国立大学法人における全国調査～(参考1より改変)

いと、周囲の人が気付いた時も、早めの相談を勧めてあげてください。

大学生の死因は自殺、事故、病气

鬱病は「心に悩みがある」という程度ではなく、脳の神経伝達物質が正常に機能しなくなっている病的な状態です。治療のできる病気ですが、気付かないと進行して自殺にも繋がりがかねません。国立大学法人における全国調査(大学における休・退学、留年学生に関する調査)でも大学生の死因の第1位は自殺で、事故死や病死よりも多く、その傾向は最近特に目立っています(図1)。同調査における平成20(2008)年度の学生10万人当たりの自殺者数は18.3人で、3年連続の増加となっています。一般的に自殺者は、鬱病や統合失調症といった精神疾患を持っていながら、治療を受けていなかった人が多いとされています(図2)。「心の病」を早期に発見し、カウンセラーや精神神経科医による治療に繋ぐことが肝要なのです。

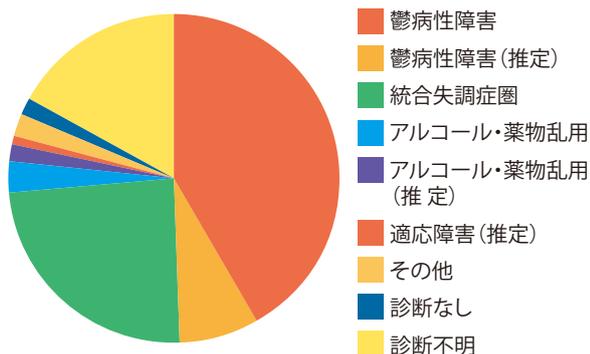
気付いてもらえる人を持つ大切さ

「心の病」は自分では気付かないまま進行していることも多いものです。様子がおかしいと、気付いてもらえる人を持つおくことも大切です。自殺の危険度が高くなる要素として、留年や休・退学、単身生活、ゼミ(研究室)に所属していないこと、などが挙げられ、いずれも孤独に陥りやすいという共通点があります。課外活動なども含めて、友人や教員との繋がりや輪を拡げておくことが大切なのです。親元を離れる方も、定期的にご家族と連絡をお取りください。

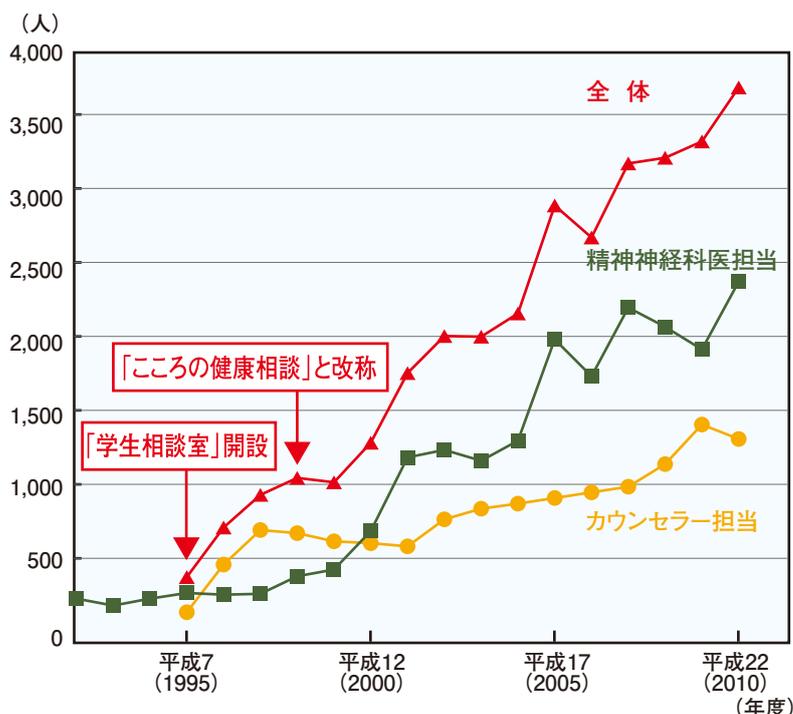
鬱病の可能性は誰にでも

大学としても自殺の危険度の高い人をいかに発見し、大学として支援の手を差し伸べるかが課題です。神戸大学には保健管理センターに「こころの健康相談」があり、カウンセラーと精神神経科医が心の悩みや心配事はもちろんのこと、「心の病」に至るまで、あらゆる心の相談に応じています。平成 22 (2010) 年度には延 3,676 人が利用され、治療が必要な方も数多く見い出されました (図 3)。それでもなお、前述の国立大学法人における全国調査では、自殺者の中でこのような施設を訪れている人は 20% に満たないとも言われています。神戸大学では大学生の精神的健康度をチェックするために開発された調査である「UPI」(University Personality Inventory) を新入生全員に毎年実施し、特定の項目(「死にたくなる」)にチェックをした人や、チェック数の多い人(全 60 設問中 30 項目以上にチェックをした人)、「保健管理センターからの連絡を希望する(相談したい)」とした人に連絡を取り、精神神経科医による面接を行っています。平成 23 (2011) 年度の「UPI」調査では、「死にたくなる」にチェックをした人だけで学部新入生 68 人 (2.58%)、大学院新入生 35 人 (1.88%) でした。また、一部の研究科では学生約 10 人毎に担当教員を割り当て、成績表配布時に担当教員が学生と面接して単位取得・生活・健康等の状況を把握し、簡単な「メンタルヘルス・チェック」を行っているところもあります。そこでは、面接に来ない学生については大きな問題を抱えている可能性があると考え、状況に応じて本人の緊急連絡先への連絡も取られています。

鬱病になって死をを考えてしまう可能性は誰にでもあります。また、自分は大丈夫でも、周りの家族や知人が悩んでいるかもしれません。あなたやあなたの大切な人達のために・・・カウンセラーや精神神経科医に「相談してみよう」、「相談してみたら」の思いや一言で救われる命があるのです。



(図 2) 自殺既遂者の精神医学的診断 (参考2より改変)



(図 3) 神戸大学保健管理センター「こころの健康相談」利用者数の推移

参考

1. 内田千代子:大学における休・退学、留年学生に関する調査 第 31 報. 第 32 回全国大学メンタルヘルス研究会報告書, 2011
2. 張賢徳:人はなぜ自殺するのか. 勉誠出版, 東京, 1996
3. 小林 俊三:学生の自殺とメンタルヘルス. KTC 65: 82-84, 2007

保健管理センターは…

六甲台キャンパス(本部管理棟2階)と深江キャンパス、楠キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、栄養指導、健康教育、産業医活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

「からだの健康相談」や「こころの健康相談」をご利用の際は、待ち時間の緩和と十分な相談時間の確保のため、予約を取られることをお勧めします。

● お問い合わせ

〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
[神戸大学保健管理センター] ☎ 078-803-5245

〒 658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
[神戸大学保健管理センター深江分室] ☎ 078-431-6232

〒 650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1
[神戸大学保健管理センター楠分室] ☎ 078-382-5006

〒 654-0142 神戸市須磨区友が丘 7-10-2
神戸大学医学部保健学科内
[神戸大学名谷地区保健管理室] ☎ 078-796-4537

● 保健管理センターだより 80

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)
保健管理センターの詳細につきましては、
保健管理センターホームページでも案内しています。
<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>

神戸大学のキャンパス〈その4〉

みょうだに
名谷地区

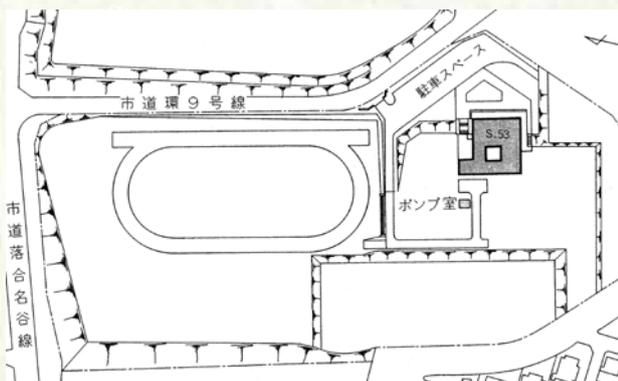
神戸大学キャンパスは4つの地区に分かれている。いずれも神戸市内にあり、六甲台地区、楠地区、名谷地区、深江地区と称される。今回はその一つ、名谷地区を取り上げてみたい。

■ コンパクトなキャンパス

名谷地区は、大学院保健学研究科・医学部保健学科の所在地であり学内で最もコンパクトなキャンパスである。土地面積3万3,329㎡を有し、教育研究に適した落ち着いた雰囲気を出している。神戸市須磨区友が丘7丁目に位置し、最寄りの神戸市営地下鉄西神線「名谷」駅から徒歩約15分の距離にある。

■ 誕生

名谷地区の歴史の始まりは30有余年前にさかのぼる。当時ここは豊かな自然が残る緑に包まれた丘陵地であり、神戸市が土地を造成して須磨ニュータウンの名谷団地として開発を進めていた。医学部出身の須田勇学長が率いる神戸大学では、医学部附属看護学校及び同附属臨床検査技師学校の短期大学化を目指して新たな土地を求め、この須磨ニュータウンの一角に目を付けた。そして「神戸大学医学部拡張用地（附属専修学校）購入計画」を1976（昭和51）年度より始動させ、神戸市から土地を購入。神戸市営地下鉄「名谷」駅が開業した1年後の1978（昭和53）年3月30日、この名谷の地に医学部附属看護学校及び同附属臨床検査技師学校の共用の本館（鉄筋コンクリート造り4階建て、現在の中棟）1棟が竣工した。8月21日、22日、元の所在地である楠地区から名谷地区への移転作業が実施され、4トントラック延24台で運搬した段ボール約700個の開封作業が23日から開始され、24日本館に事務室が開設され移転が完了。9月の新学期は名谷地区で迎えた。当時の『神戸大学学報』は名谷地区の利点について「電車通学をする学生にとってはニュータウンから市街地への通勤者とは逆の登下校をすることになり、混雑のない通学もかくされた一面として恵まれた地」だと説明している。こうして名谷地区の歴史が始まったのである。



設置当初の名谷地区の配置図 1978(昭和53)年



竣工直後の医学部附属看護学校・附属臨床検査技師学校の本館
1978（昭和53）年

■ 医療技術短期大学部から医学部保健学科へ

誕生間もない名谷地区は、緑の無い地面むき出しの荒涼としたキャンパスの中にポツンと1棟の本館建物があるだけ。その殺風景な様子は学生・教職員を驚かせたが、早急に植樹などの環境整備が進められ、現在は豊かな緑に恵まれた快適なキャンパスとなっている。1981（昭和56）年医学部附属の看護学校と臨床検査技師学校が短大に昇格して、神戸大学医療技術短期大学部が設置されると、講義棟、北棟、南棟、図書館、体育館が次々と建設され教育研究環境の充実が図られた。1994（平成6）年医療技術短期大学部は念願の4年制に改組されて医学部保健学科が設置され※、1999（平成11）年大学院医学系研究科の中に保健学専攻修士課程（博士課程前期課程）、2001（平成13）年博士課程後期課程が設置されたが、2008（平成20）年医学系研究科から独立して大学院保健学研究科となった。

これまで多くの学生が名谷地区から医療現場へと巣立っていった。そしてこれからも、人々の健康を助けるため名谷地区は日々進化し続ける。

（神戸大学附属図書館大学文書史料室講師 野呂理栄子）

※1997（平成9）年に名谷地区の周辺で神戸連続児童殺傷事件（酒鬼薔薇事件）が起こり一時騒然となった。



近年の名谷地区 2006(平成18)年

お知らせ

神戸大学創立110周年

「世紀を超えて～神戸大学」(For 110 years and beyond)

神戸大学は1902(明治35)年の創立以来、本年で110周年を迎えます。これを記念し、「世紀を超えて～神戸大学」(For 110 years and beyond)をキャッチフレーズに、各種のシンポジウムや公開講座などを実施します。

神戸大学は、開放的で国際性に富む固有の文化の下、構成員一人ひとりが「真摯・自由・協同」の精神を共有しつつ、更なる飛躍に向けて、2015(平成27)年までに世界トップクラスの教育研究機関となり、卓越した社会貢献を行うべく、「グローバル・エクセレンス」の実現を目指しています。

神戸大学は1902(明治35)年の創立以来、本年で110周年を迎えます。これを機に、エクセレンスフェーズ(2013～2015)に向けて、特に、

- 国際場で活躍できる神戸大学生の育成
- 先端学術領域における世界トップクラスの研究およびその発信
- 防災、減災研究教育の拠点としての社会貢献
- 地域社会への貢献
- 大学経営を支えるスタッフの育成

の領域で施策を強化推進してまいります。

このような取組みの一環として、年間を通じて国内外で行う本学主催のシンポジウムや、市民向けの公開講座、さらには学生主催のイベントなど創立110周年記念事業として開催します。

特に、創立110周年に当たる2012(平成24)年5月15日(火)には、神戸ポートピアホテルにおいて、創立110周年とコンベンションホールの完成を記念して行う式典をメインイベントとして実施いたします。





<http://www.kobe-u.ac.jp>

神戸大学広報室 発行 2012年 4月 1日

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5022 E-mail : ppr-kouhousitsu@office.kobe-u.ac.jp